

M H K 通信
 自ら学び、判断し、行動する 生徒を育むための研究通信

第1号 発行日 2016. 5. 6

第1回校内研修会 理論研修～東中版アクティブラーニングの構築を目指して～

次期学習指導要領改訂の視点

「新しい時代に必要となる資質・能力の育成」

- ①何を知っているか、何ができるか
 (個別の知識・技能)
- ②知っていること・できることをどう使うか
 (思考力・判断力・表現力)
- ③どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか (人間性や学びに向かう力等)

何を学ぶか+どのように学ぶか

アクティブラーニングとは・・・

- ①主体的・協働的な学び
 - ②ある物事を行わせ、行っている物事について考えさせること → 思考の活性化
- アクティブ・ラーニングは活動だけでは成立しない。

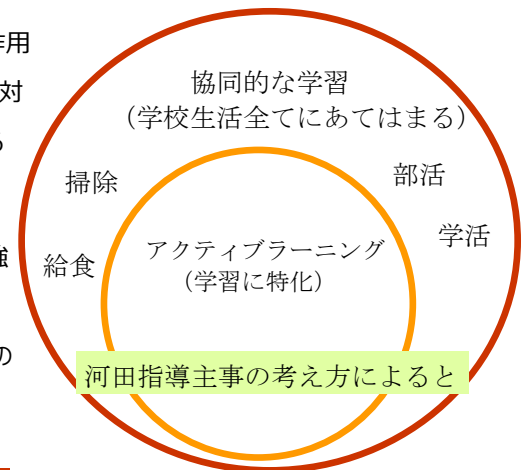
③ 学修者の能動的な学修への参加を取り入れた教授・学習法の総称。

アクティブ・ラーニングの授業改善3つの視点

- (1) 習得・活用・探究という学習プロセスの中で、問題発見・解決を念頭に置いた深い学びの過程が実現できているか。
- (2) 他者との協働や外界との相互作用を通して、自らの考えを広め深める、対話的な学びの過程が実現できているか。
- (3) 子供たちが見通しを持って粘り強く取り組み、自らの学習活動を振り返って次につなげる、主体的な学びの過程が実現できているかどうか。



アクティブラーニングと協働的な学習を比較し、話し合った



東中が進めてきた「協同学習」とは

自分の学びが仲間に役立つ。仲間の学びが自分に役立つ。

協同学習の意義・目的

自分のためにも、仲間のためにも真剣に学ぶことによって「強い個」を育てる



真剣に学べばこの距離感になる

協同学習が目指す学力

- 主体的で自律的な学びの構え
 - 確かで幅広い知的習得
 - 仲間と共に課題解決に向かうことができる対人技能
 - 他者を尊重する民主的な態度
- 「協同学習入門～基本の理解と51の工夫～(杉江修治著)」より

研修のポイント：

- ・東中で取り組まれている、「協同学習」の視点での授業改善は、アクティブ・ラーニングの視点での授業改善そのものである。
 - ・アクティブ・ラーニングも協同学習も「学習の型」ではなく、「学力をつけるための考え方」
 - ・「学習の型」は理論についての理解を深めた上で、先生方が創り出すもの
- 目指す生徒像をもとに授業改善を！**
 つけさせたい力を明確に。そこから始まる授業改善